

### 3. 上蔵垣内遺跡

所在地：坂井市坂井町五本・上関

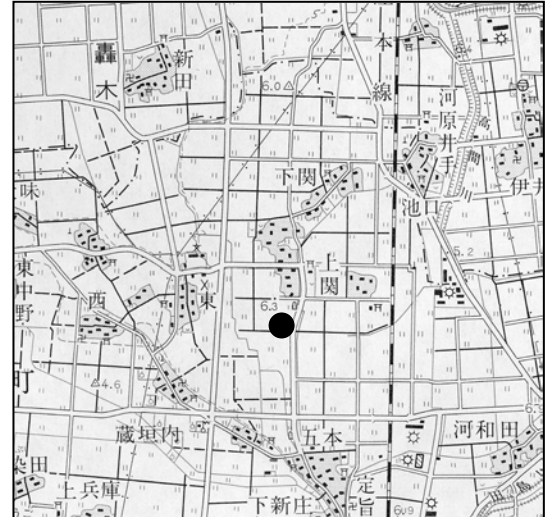
調査原因：県営かんがい排水事業 東江地区

調査期間：平成 25 年 11 月 1 日～12 月 27 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,330 m<sup>2</sup>（1区：300 m<sup>2</sup>、2区：630 m<sup>2</sup>、  
3区：400 m<sup>2</sup>）

時代：弥生～近世



位置図 (S=1/50,000)

#### 調査の概要

上蔵垣内遺跡は坂井市坂井町五本集落の北、上関集落の南、蔵垣内集落の東に位置する遺跡です。縄文・弥生・古代～近世の各時代の遺物が分布することで知られています。県営かんがい排水事業に伴い、遺跡の一部が破壊されることから、記録保存のための発掘調査を実施しました。今回の調査区は、五本集落の北端から上関集落の南端にかけての水田地帯を南北に走る農道部および水路部で、南から北へ順に1・2・3区と連続し、遺跡範囲の北半部を縦断する形になっています。調査の結果、弥生および古代から近世にかけての遺構・遺物を確認しました。以下、各調査区の概要を記しますが、遺構番号は調査区別に付しました。また、3区は過去の開発で深く削平され、遺構・遺物とも残っていませんでした。

**1区** 主な遺構は自然河川 (SR1) と溝 (SD1) です。SR1 は調査区北端から約 20m 南方まで延び、そこで西岸のみ検出しました。近世の越前焼や燻瓦などが出土しており、近世から近現代まで存続した河川跡と判断します。SD1 は一部削平されていましたが、SR1 からさらに南へ延び、調査区の南端で3条に分かれます。遺物は弥生土器が主ですが、削平部の埋土から須恵器、土師質皿、中・近世陶磁器、庖丁、鉄鏟なども出土しました。

**2区** 主な遺構は自然河川2条 (SR1・2)、溝 22 条、土坑 10 基、ピット 3 基です。SR1 は調査区南端から 100m ほど蛇行しつつ北上し、最後には調査区東方に出て消失します。近現代の遺物が出土しており、1区の SR1 につながる河川と推測します。SR2 は SR1 のさらに北にあり、調査区のほぼ中央部を東西に横断しますが、この SR2 を境に北側と南側で遺構数や内容に差があり、遺構の大半が SR2 より北側にあります。出土遺物も北側はほとんどが弥生土器ですが、南側は遺物量自体が少なく、遺構の時期も異なる可能性があります。

#### まとめ

1区および2区南半部では、弥生および古代から近世まで複数の時期の遺構が重複して分布すると考えます。一方、2区北半部では遺構の内容や出土遺物から、所属時期は弥生時代にほぼ限定でき、1区および2区南半部とは基本的に関連しないと考えます。1・2区とも建物に関連する遺構がないので、集落としては縁辺部分に相当すると推測しますが、1区および2区南半部と2区北半部との様相の違いについては、所属する時期の違いの他に、集落の本体そのものが違う可能性も考えるべきでしょう。

(中森敏晴)



1区 (南から)



2区北半部南側 (北から)



2区南半部 (北から)



2区北半部北側 (北から)